メロディを手がかりにした歌詞とタイトルの再生

小槻智彩

(奈良女子大学人間文化研究科)

キーワード：歌の記憶，長期記憶，再生

Recall memory for lyrics and titles of songs cued by melody

Chisa OZUKU

(Graduate School of Humanities and Sciences, Nara Women's University)

Key Words: memory for songs, long-term memory, recall

目 的

歌は歌詞とメロディという言語要素と音楽要素から構成され、タイトルやアーティスト名、発表年といった知識とも結びついて記憶されている。村上・米澤 (2002) は、日本の童謡・唱歌のタイトルから歌詞を再生させる質問紙実験を行い、タイトルを手がかりとして歌を再生する場合、タイトルがリンク付けられている歌出しの歌詞ユニットと旋律ユニットと一緒に再生され、その後に続く旋律を検索しながら歌が再生されていくというモデルを提案している。また、Peynircioglu et al. (2008) が、歌詞とメロディは統合関係、歌詞とタイトル、メロディはそれぞれ連合関係にあると述べているように、歌詞とメロディは歌そのものを構成する要素であり強固に結びついているが、タイトルは歌を直接構成するものではなく、ラベルとして付随している。村上ら (2002) はタイトルを手がかりとして、歌の記憶にアクセスしたときの歌詞再生を検討したが、ここでは、メロディを手がかりとして、同じ歌の構成要素である歌詞と、付随情報であるタイトルにそれぞれどのようにアクセスされるかを検討する。

方 法

実験参加者 日本語を母語とする短大生・大学生 35 名 (平均 19.2 歳, 年齢 18-23 歳)。

刺激材料 齊藤ら (2009) が心理学的属性の調査を行った童謡・唱歌 100 曲を材料とし、親密度が高いものから、(1) 4 小節を 1 フレーズとして一番の歌詞が 4 フレーズ以上の長さであるもの、(2) フレーズ間で歌詞の重複がないものを 15 曲選定した。メロディと歌詞は「こどものうた」(日本音楽著作権協会, 2008) に準じた。

刺激作成 手がかりとする刺激メロディは冒頭の 4 小節 (第 1 フレーズ) とし、楽譜・音楽作成ソフト MuseScore1.3 を用いて、キーボード (ピアノ) の音色による単音で作成した。刺激の長さの平均は 6.6s ($SD=2.1$)、音韻数平均は 14.4 ($SD=4.0$) であった。

手続き 集団もしくは個別に行った。刺激メロディは PC に接続したスピーカーから呈示した。始めに全音階を流して音色と音量の確認を行い、練習試行を「森の熊さん」で行った後、実験を開始した。実験者が合図をした後にメロディを再生し、参加者は手元の用紙に再生されたメロディを含む歌の一番の歌詞と、タイトルを想起して記入した。実験者は参加者の様子を見ながら次のメロディを再生し、計 15 試行を行った。メロディの順序は固定であり、所要時間は 15~25 分であった。

結 果

想起された歌詞とタイトルを「正再生」「類似再生 (少なくとも単語レベルでの一致が含まれる)」「無再生・誤再生」に分類した。刺激メロディから、タイトル・歌詞のどちらか一

方でも「正再生」あるいは「類似再生」された場合を「正しく歌が想起された」とし、歌ごとの想起割合の平均を求めたところ、0.76 であった。次に、刺激メロディに対応する第 1 フレーズの歌詞に関して「正再生」と「類似再生」を「想起あり」とし、歌詞とタイトルの想起数について比率検定を行ったところ、歌詞の想起が有意に高かった ($Z=6.80, p<.001$)。さらに、歌詞とタイトルの想起有無についての χ^2 検定では、歌詞が想起されたときにはタイトルの想起が多く、歌詞が想起されなかった場合にはタイトルの想起も少なくなっていた ($\chi^2=187.2, p<.001$) (Table 1)。

また、歌詞とタイトルの誤再生において特徴的であったものを挙げると、(1) 誤った歌詞とそのタイトルを再生 (「夕焼小焼」のメロディから「たきび」を再生)、(2) 二番の歌詞を再生し、再生した歌詞に含まれる単語を用いたタイトルの誤り (「たきび」の二番に含まれる「さざんか」をタイトルに用いる)、(3) 歌詞に含まれる単語ではあるが誤ったタイトルを再生 (「茶摘」のタイトルを「八十八夜」とする) があった。

Table 1 メロディから想起された第 1 フレーズの歌詞とタイトルの度数

		タイトル		
		想起あり	想起なし	計
歌詞	想起あり	278	88	366
	想起なし	18	140	158
計		296	228	524

考 察

歌のメロディを手がかりに歌詞とタイトルを想起すると、歌詞の再生がタイトルよりも良く、歌詞の想起有無によってタイトルの想起有無が異なっていた。誤再生の内容からは、再生した歌詞を手がかりにタイトルを想起していると予測され、言語同士の結びつきの強さが影響していると思われる。歌の構成要素であるメロディからはまず統合関係にある歌詞が再生され、再生された歌詞を用いて歌に付随したタイトルが想起されていると考えられる。こうした結果は、先行研究における歌の記憶構造を確認するものであった。

引用文献

- 村上・米澤 (2002). 認知科学, 9(2), 230-243.
 日本音楽著作権協会 (2008). こどものうた わらべうた・唱歌・童謡〜アニメソング 野ばら社
 Peynircioglu et al. (2008) *Psychology of Music*, 36(1), 47-61.
 齊藤・佐久間・石井・水澤 (2009). 心理学研究, 80(5), 405-413.